



# 学校だより

さいたま市立大谷場小学校

<http://oyaba-e.saitama-city.ed.jp/>

## 学校教育目標

- ひとみが輝く子 —  
かしこく  
やさしく  
たくましく

今月の生活目標

友だちと仲良くしよう

## 小さな世界では、なぜかいじめが始まる

校長 三上 良正



中一のあるとき、吹奏楽部で一緒だった友人に、だれも口をきかなくなったときがありました。いばっていた先輩が、3年になったとたん、急に無視されたこともありました。突然のことで、ぼくにはわけがわかりませんでした。

でも、さかなの世界と似ていました。たとえば、メジナというさかなは、海の中で仲良く群れて泳いでいます。せまい水槽と一緒に入れたら、一匹を仲間はずれにして攻撃し始めたのです。けがをしてかわいそうで、そのさかなを別の水槽に入れました。

すると、残ったメジナは他の一匹をいじめ始めました。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てきます。いじめっ子を水槽から出しても新たないじめっ子があらわれます。広い海の中ならこんなことはないのに、小さな世界に閉じこめると、なぜかいじめが始まるのです。同じ場所にすみ、同じエサを食べる、同じ種類同士です。

中学時代のいじめも、小さな部活動でおきました。ぼくは、いじめる子たちに「なんで？」ときけませんでしたが、でも、仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行きました。

学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほっとした表情になりました。話を聞いたり、励ましたりできなかったけど、誰かが隣にいて安心できたのかもしれない。

ぼくは、変わりものですが、大自然のなか、さかなに夢中になっていたらいやなことも忘れます。

大切な友達ができる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んだりしても楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのもったいないですよ。

広い空の下、広い海へ出てみましょう。

上の文章は、東京海洋大学客員准教授で、魚が大好きな「さかなクン」が、朝日新聞に載せた「いじめられている君へ」というメッセージです。そして、このメッセージは、「さかなのなみだ」という本になって多くの人の心の共感を得ました。とても短くて簡潔な絵本ですが、さかなクンの優しい気持ちが伝わってくる絵本です。皆さん、友だちが辛い時は一緒にいてあげて、自分が辛い時は、「広い海に出てみよう」という言葉にある通り、一人で閉じこもってしまわないで、もっともっと広い海があるんだ、と考え、行動できるといいですね。

先月の5月は、「さいたま市相撲大会」で、本校から多くの子どもたちが出場し、雨の降る寒い中、真剣な試合をし、5人もの入賞者を出しました。また、2年生は、遠足で「葛西臨海公園の水族館」に行き、海の生物にじかに触る体験をしました。6年生は、校内バスケットボール大会で、真剣なプレー・一生懸命の応援をしました。そして、5年生は、「たかつえ自然の教室」で、ジップライン・キャンプファイヤー・登山・野外炊飯など、浦和では体験できない「豊かな自然を感じ、協力する大切さ」を学びました。



保護者、地域の方々と心を通わせ、子どもたちの健やかな成長をはぐくみ、見守り、子どもたちの心に寄り添っていきます。

(左上写真：さかなクンが魚の絵を描いている所、右下写真：悪戦苦闘の野外炊飯)

マスコミにもよく登場する

2006年の

さかなクンは、小学生の時にタコに取りつかれ、毎日魚屋さんでタコを見つめ、家でも毎日タコ料理、タコの絵を何時間も描き続けていたそうです。他のお魚も好きになり、学校にも教科書の代わりに魚図鑑持って行ったりしていました。からかわれて「タコ」というあだ名で呼ばれても、大好きなタコって呼ばれて嬉しかったそうです。そして、今では、海洋大学で客員准教授になったり、色々なお魚関係の親善大使に任命されたり、テレビ番組に出演したり色々な方面で活躍しています。そして食事も三食お魚だそうです。それよりも私が素晴らしいと思ったことは、彼が小さい頃から好きだったことを、ずっと純粋に好きでい続けたことです。

心から夢中になれるものが見つかる、自分の世界がどんどん広がっていきますね。